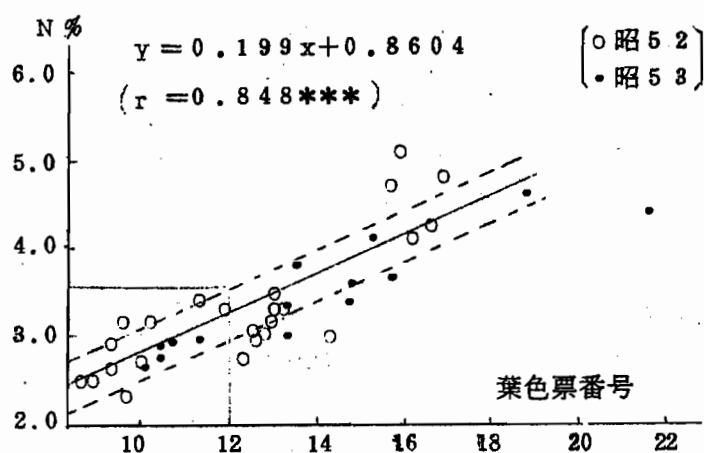


## 2) 稚苗窒素濃度と葉色番号の年次比較



## (6) 残された問題点

- 1) 火山灰土壌を床土に用いた場合、県北地方における適用性の検討
- 2) 中苗に対する適用性の検討

## 4 水稻箱育苗における尿素的移植直前施用の効果—続報—(農試県南分場)

### (1) 背景

すでに昭和52年度に参考事項として出した水稻機械移植栽培における尿素的移植前箱施用について、追試を重ねた結果、施用効果が一層明らかになり、あらたな知見が得られた。

### (2) 技術内容

- 1) 尿素的を箱あたり成分5~8g(現物量11~18g)移植前日または当日均一に散布する。
- 2) 箱の土壌水分は湿った状態がよい。前日施用の場合は灌水前に施用してもよい。
- 3) バダン、サンサイドとの併用は差支えない。
- 4) 稚苗、中苗に効果の差がないが、苗質の劣るものでは効果がみられない。
- 5) 稚苗の育苗期間中の追肥は省略できる。ただし、床土には十分な基肥が施され、苗丈が確保されることが前提である。

### (3) 指導上の留意点

- 1) 多量散布、無灌水であるから均一散布に留意し、粒剤散布器などの利用が望ましい。
- 2) 施用量の限界は成分10g(尿素22g)までは濃度障害がみられず、成分12.5gで株枯れなどの症状がみられる。
- 3) 葉面に水滴がある状態で尿素的を散布すると葉先枯れなどの濃度障害がみられ、とくにバダン、サンサイドとの併用の場合は薬害発生の原因となるので、必ず水滴がなくなってから散

布すること。

- 4) 軟弱徒長苗では尿素施用はさけた方がよく、とくにパダン、サンサイドとの併用はさけること。

(4) 試験成績の概要

- 1) 試験課題名 水稻箱育苗における尿素の移植直前施肥に関する試験
- 2) 試験年次, 場所 昭和53年, 農試県南分場
- 3) 試験方法 小試験項目別に注記
- 4) 試験結果

試験I 尿素の施用量と初期生育ならびに箱施用殺虫剤と尿素の併用と関係

区名	項目	移植10日後採取調査					移植28日後採取調査					出穂期
		葉齢	同比	乾物重 g/100本	同比	N濃度 %	草丈 cm	葉齢	分け つ数 本	乾物重 g/100本	同比	
1	尿素0g	2.54	100	1.97	100	3.02	19.9	5.2	0.4	4.85	100	8.4
2	" 12	2.80	110	2.28	116	3.06	20.1	5.4	0.4	6.45	133	3
3	" 18	3.84	112	2.43	123	3.45	22.9	5.8	1.0	9.46	195	3
4	パダン50	2.51	100	2.32	100	3.08	18.9	5.0	0.1	4.37	100	3
5	パ50+尿12	2.87	114	2.67	115	3.19	20.6	5.3	0.4	6.78	155	3
6	サンサイド50	2.32	100	1.90	100	2.88	19.2	4.8	0	4.52	100	4
7	サ50+尿12	2.58	111	2.16	114	3.33	20.4	5.2	0.3	6.04	135	3
8	200g播尿0	3.71	100	2.11	100	2.52	19.2	4.8	0	3.37	100	4
9	" 12	2.74	101	2.40	114	2.86	20.3	5.1	0	4.88	145	3
10	150g播尿0	2.96	100	2.41	100	2.64	22.0	5.0	0.1	5.99	100	2
11	" 12	3.21	118	2.94	122	3.00	22.9	5.7	0.5	7.98	133	1

注) 品種: トヨニシキ 播種量: 180g/箱 施肥量: NPK各2g/箱, 無追肥

供試苗の苗質: 1~7区は簡易緑化法N-4.71%

(21日苗)

8~9区は台車緑化法N-3.47%

(21日苗)

10~11区は台車緑化法28日苗, N-4.05%

移植: 53.5.2

試験Ⅱ 育苗期間の追肥の有無と尿素の移植直前施肥の関係

区名	項目	稲体N濃度 (%)			移植10日後抜取調査				移植25日後抜取調査				
		施肥前	24時間後	48時間後	葉齢	乾物重	同比	N濃度	草丈	葉齢	分けつ数	乾物重	同比
1	元肥7+14当日 2-0-0-0	—	—	—	2.28	2.49	76	1.84	20.7	4.4	0	4.03	74
2	2-1-0-0	—	—	—	2.25	2.73	83	2.12	18.1	4.7	0.3	5.20	96
3	2-0-1-0	—	—	—	2.44	2.95	90	2.44	—	—	—	—	—
4	2-1-1-0	—	—	—	2.48	3.28	100	2.34	19.3	4.6	0.1	5.43	100
5	2-1-1-5	3.69	4.61	5.33	2.55	3.47	106	2.76	19.0	4.7	0.8	7.54	139
6	2-0-1-5	—	4.37	4.29	2.55	3.08	94	2.72	21.1	4.8	0.8	8.02	148
7	2-1-0-5	3.53	4.19	4.51	2.65	3.31	101	2.76	20.4	4.9	0.0	8.69	160
8	2-0-0-5	3.25	—	3.97	2.73	3.22	98	2.64	21.3	4.9	0.9	7.27	134

注) 品種：ササニシキ 播種量：180g/箱 施肥：2-2-2g/箱 (稚苗専用2号)

7, 14日目の追肥は硫酸で、当日追肥は尿素を用いた。

移植：53.5.9 20日苗

試験Ⅲ 尿素の施用量と稲体窒素濃度の推移ならびに本田生育

区分	項目	稲体窒素濃度 (%)					6日後の生育		13日後の生育			出穂期
		12時間後	24時間後	48時間後	6日後	13日後	草丈	葉数	草丈	葉数	分けつ数	
1	カブマキN-0	3.25	3.48	2.84	2.73	3.76	20.4	5.4	36.0	6.0	1.15	8.7
2	" N-5	3.68	3.79	3.97	2.53	3.54	21.2	5.9	34.1	6.3	1.65	6
3	" N-7.5	4.32	4.48	4.36	3.53	3.56	22.7	5.8	35.4	6.2	1.20	6
4	" N-10	4.13	4.40	4.56	3.47	3.44	23.9	5.9	37.0	6.4	2.14	6
5	" N-12.5	4.56	4.58	(濃度障害により欠株, 株揃い悪く調査中止)								6
6	中苗N-0	3.15	3.50	3.46	—	—	注) 品種：アキヒカリ カブマキポットは75g播 42日苗, 中苗は100g播 35日苗, 追苗：5.30N1g 移植：53.6.13					
7	" N-5	3.85	4.50	4.46	—	—						
8	" N-7.5	3.50	3.42	5.32	—	—						
9	" N-10	3.31	3.93	—	—	—						

(5) 残された問題

- 1) 育苗期間の追肥の有無と苗質, 尿素施用の効果との関係 (継続)
- 2) 軟弱徒長苗や老化苗に対する効果の有無ならびに濃度障害発現の様相
- 3) 代かき時の表層施肥, 活着肥省略の可能性